

## 教材・支援機器活用実践事例

### 【生活の見通しをもたせる日常生活の指導】

	実施年度	平成27年度
授業について	教科名等	日常生活の指導
	単元・題材名	「今日やったこと」(算数の暦の内容、国語の読み書きの内容を含む)
	授業における教師のねらい	○毎日の予定の確認や一日の出来事の振り返りを積み重ねることで、生活に見通しを持ち、主体的に取り組もうとする姿を引き出す。 ○毎日繰り返すことを通して、暦の数字や平仮名・片仮名文字の読み書きへの興味関心を高め、定着を図る。
	授業における子どもの目標	○予定表で今日の日付や曜日を確認することができる。 ○なぞり書きや視写で自分の名前を丁寧に書くことができる。 ○給食の献立や今日やったことを書いて、発表することができる。
子どもについて	学校・学級・学年	県立養護学校 小学部 中学年
	対象の障がい	知的障がい
	授業の形態	小集団学習
学习上または生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	お互いに友達の行動を見て真似しようとする。数字や文字への関心があり、身近に表示されているものを拾い読みしたり、鉛筆を持って書こうとしたりする姿がある。 日常生活の一場面に毎日繰り返しのある書字活動を組み入れることで、読み書きへの意欲や技能の向上が期待できる。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	(1) 数字シール (月の暦に対応)、平仮名文字シール (50音順) (2) プリント「今日やったこと」「今日の給食」 (3) 学習カレンダー (室内掲示用はA4×9枚に拡大して使用)
	活用のねらい	・数字や平仮名・片仮名文字をシールで対応させたり、大きな文字のなぞり書きにしたりして、書字が困難な児童も自信を持って他の児童と一緒に取り組めるようにする。 ・学習カレンダーを用意し、「今日やったこと」のファイルを毎日持ち帰らせ、学習したことを家庭で話す機会がもてるようにした。
授業における支援・教材の配慮	○給食の献立表は、一つ一つの献立欄に画像を添付。児童の実態に応じて、なぞり書き用、視写用、文字シール用を作成。児童が理解しやすいように、「さかな」「とりにく」など、必要に応じて献立名を簡単なものにした。 ○数字や平仮名文字のシールは、月の暦と50音表に対応させたケースに入れて提示。見本を見ながら対応するものを自分で選べるようにした。	
子どもの変容や評価	・毎朝、登校して荷物整理や着替えを終えると、自分からプリントを準備して取り組むことが習慣化した。 ・なぞり書きから線のなぞり書き、なぞり書きから視写へと、少しずつ書く力を高めることができた。	

